

気軽に散歩 （北海道・小樽）

北海道小樽市は札幌に隣接する観光都市である。石狩湾に面し、北海道開拓の玄関口として、国際的な港湾都市として栄えた歴史を持つ。大正時代末期には道内で最も銀行が多い地域となり、「北のウォール街」とも呼ばれた。

J R 小樽駅で降りると、ホームの柱には、青や黄色などのランプが優しい光を灯していた。駅舎を出ると大通りが延び、真正面に海が見える。小樽港だ。海に向かって 10 分ほど歩くと、小樽運河が見えてきた。

小樽運河は、港に入る大型船からの荷物を円滑に倉庫へ運ぶために造られ、大正 12（1923）年に完成した。岸壁の整備に伴い役割を終えたが、現在も小樽の名所として親しまれている。長さは約 1200 メートル。

運河に沿いではギターのような楽器の音色や、小樽の風景を描いた絵画が並んでいて、耳や目を楽しませてくれる。運河をはさんで対岸には石造りの倉庫がレストランとして改装されており、テラス席で食事を楽しむ人々の姿が。ゆっくりとした運河の流れの中、時間もゆったり流れていく。

ここで、運河沿いの小樽運河食堂へ行くことに。ここには、倉庫の中に北海道の海鮮や名物であるスープカレーなど、9 店舗の飲食店が入っている。次から次に現れる北海道グルメに目移りしてしまうが、迷った末に海鮮丼を味わった。

北の海の幸で空腹を満たしたところで、商人街として栄えた堺町通りを散策する。ここ小樽では明治時代に石油ランプやニシン漁用の浮き玉の製造から始まった、ガラス造りがさかん。堺町通りには石造りの倉庫を再利用した店が多く、店先や店内に赤や黄色、水色などがきらめく。

その美しさに惹かれガラス店に入ると、ガラスやアクセサリなどが店内を彩っていた。周っていると、「北一ホール」の看板を見つけたので入ってみる。足を踏み入れると、ほの暗い中に数多くのランプの光が浮かんでいた。この北一ホールは小樽で 10 店舗以上を展開するガラス製造・販売会社の、北一ガラスが直営する喫茶店。石造りの倉庫を利用した店内には 167 個の石油ランプが灯されている。せっかくなので、コーヒーを飲みながらひと休み。ランプの優しい灯りですぐにリラックスできた。

クラシカルな倉庫に色とりどりに輝くガラスが似合う町・小樽。小樽港には本州からのフェリーも就航しているため、ぜひ訪れてみてほしい。

「海員だより」